事業概要

シビックテックによる市民協働まちづくり講座

ICTで地域課題を解決する新しい市民活動

令和4（2022）年 3月
主催：宜野湾市企画部市民協働推進課
企画・運営：アイパブリッシング株式会社

シビックテック(Civic Tech)による“市民協働まちづくり”とは

環境が目まぐるしく変化し、市民の生活様式や要望が多様化する現代では、全ての社会課題解決を行政に頼るのは、限界に達しつつある。そのため、市民（Civic）が主体となり、テクノロジー（Tech）を用いて身近な社会課題を解決し、自らの望む社会を創り上げるための活動である「シビックテック」の手法を学び、行政や企業と連携しながら様々な社会課題に取り組み、まちづくりを担える人材の育成が重要になる。本講座では、市民目線からの「課題」の掘り下げ方や、実際の活動（地域に出る、地域に試す）に結びつけていく方法、市民活動を継続するためのモチベーション維持について学ぶ。

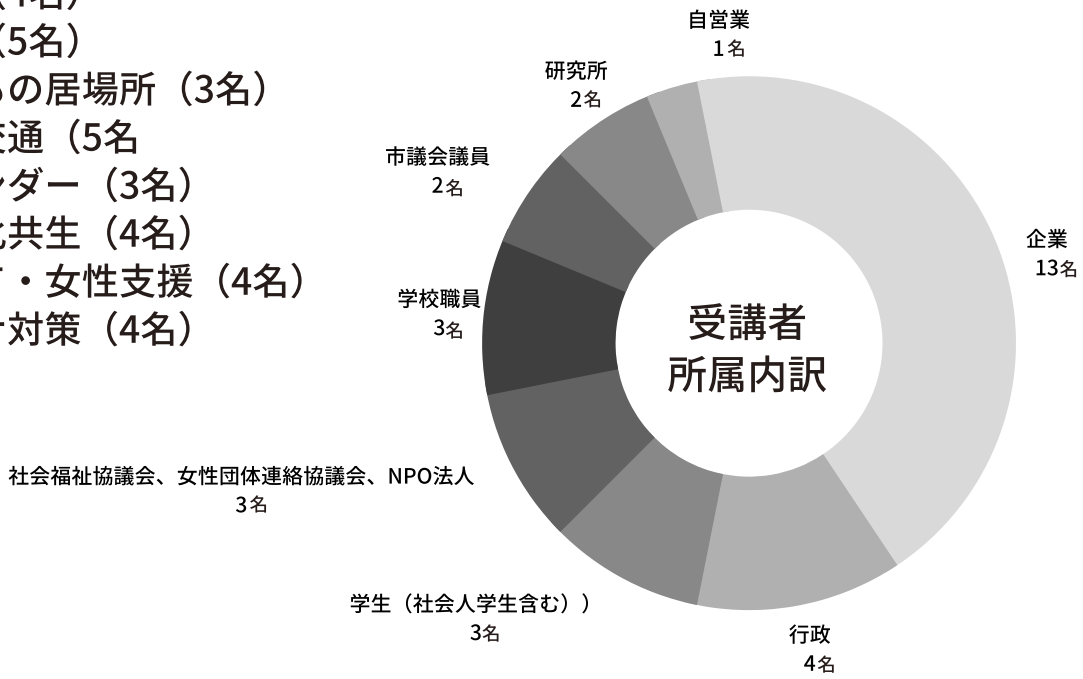
全国的にシビックテック（市民自らがICTを活用して行う地域課題解決活動）やオープンデータの見識が高く、一般社団法人シビックテックジャパンや日本の初のシビックテックコミュニティである一般社団法人コード・フォー・カナザワの代表理事を務めている。福島氏は市民活動として様々な地域課題解決プロダクトを作ってきただけでなく、オンラインも含めた市民活動研修を全国で依頼され行なっている。

メイン講師：福島 健一郎氏

32名修了（要件：全8回講座中4回以上の出席）

各チームが取り組んだテーマ

チーム1：教育（4名）
チーム2：観光（5名）
チーム3：子どもの居場所（3名）
チーム4：公共交通（5名
チーム5：ジェンダー（3名）
チーム6：多文化共生（4名）
チーム7：子育て・女性支援（4名）
チーム8：コロナ対策（4名）



ICTを活用した地域課題解決人材の育成に大切な三要素

1 真の課題の発見力

- 「市民目線」からの課題の掘り下げ方法について学ぶ
- 表面的な課題発見ではなく、ボトルネックとなっているポイントを探す力をつける

2 ICTを社会に実装（利活用）していく知識

- 社会を支えるICTの要素技術
- それを利活用した各種事例
- 簡単なプロトタイピング手法

3 市民主体の行動力

- 市民自身が考え、一人ではなくチームで知恵を出し合い共創していくことで、市民にとって本当に必要なものが創られる
- 本講座終了後も受講生同士が活動を続けられる仕組みをつくる

自発的な市民活動につなげるために 実際の活動に結びつけていく

モチベーション維持

市民活動は企業活動と異なり、仕事として活動するものではない。そのため、モチベーションの維持はとても大事になる。そのための手法についても、講義や実習などを通じて学んでいく。

アジャイル方式

最初から完璧なものを作るのではなく、地域にとってどのようなものが最善なのかを、実際に地域に出て、地域に試しながら改善していく手法を学ぶ。

資金調達法

プロジェクト実現のための資金調達方法について学び、市民活動が金銭面でも持続可能になるような方法を学ぶ。

第1回講座 10月9日(土) 13:30〜16:30

オリエンテーション

本講座の狙いを説明、実習用チームビルディング、オンラインツールの活用方法について学ぶ。

シビックテックによる市民協働まちづくり講座とは
「市民自らが、宜野湾市の地域課題を考え、ICTを活用した地域課題解決策を学ぶ市民参加型のまちづくり講座」

事業目的の共有
1. ICTを活用して地域課題を解決する動きを創り出す。
2. 「宜野湾市の地域課題」と「ICTを活用した課題解決策」を学ぶ。
3. 参加者同士の交流を図り、自発的な市民活動の動きを促す。【重要】

講義「シビックテックとは何か？ - 新しい市民社会の構築に向けて - 」

シビックテックとは「市民主体で自らの望む社会を創り上げるための活動と、そのためのテクノロジーのこと」。最初の講座は、その本質について共有しました。

シビックテックの本質とは何で、どう振る舞っていくべきなのか、そしてこれからシビックテックコミュニティは地域に対してどうあるべきか。

世の中には様々な課題があるが、その全てがビジネスとしてまわっていけるわけではない。自分自身がコミュニティに参加し、貨幣領域と非貨幣領域を見極めて地域に展開できるプロデューサー的な役割が今後求められていく。

チームビルディング

講義の後には、参加者の興味に沿ってグループ分け（1.教育、2.観光、3.子供の居場所づくり、4.公共交通、5.ジェンダー、6.多文化共生、7.子育て／女性支援、8.コロナ対策）がされました。次回からはグループでの活動も増えていく予定です。

アンケートより

- シビテックについてとてもわかり易く説明され、関連情報なども沢山共有してくれたので理解しやすかった。
- シビックテックの仕組み、活動内容や目指すもの、そして多くの事例は大変参考になりました。改めて市民主体の活動が重要な意味が理解できました。

第2回講座 10月30日(土) 13:30〜16:30

ICTの社会実装とは / 企画法概要

ICTを社会にどう実装するかの講習と、それに対するチームでの簡単なディスカッション、企画法についての概要を学ぶ。

【第2回講座のアジェンダ】

＜前半＞
ICTの社会実装＆オープンデータについての説明（福島より）
ブレイクアウトルーム：感想についてチームで共有
複数チームから発表

＜後半＞
企画法概要について説明（福島より）

＜終了後＞ ※希望者のみ
Google driveの使い方について説明

講義「ICTの社会実装＆オープンデータについて」

シビックテック活動を始めるにあたって、ICTが社会に与える影響を正しく理解することは大切です。歴史を振り返ってみるとテクノロジーを悪用したケースなどがあるため、これから社会問題を解決していく受講者の皆さんには、テクノロジーが社会にどのような影響を与えるか意識して取り組む必要があることをお伝えしました。

その後、オープンデータとは何かに始まり、実際にシビックテックの活動でオープンデータを集める際に知っておきたいこと（データの形式、データを探せるサイト、活用のされ方）についてご説明しました。

講義「企画法概要」

ヒアリングからプレゼンテーションまで企画をする際の一連の流れをお伝えしました。詳しい説明は、今後の講座でおこないます。

アンケートより

- ICTを始め、情報伝達について歴史的な視点でも学べてとても勉強になった。
- オープンデータ活用の必要性や今後のアイディアになる内容がありました。今後の企画書作成についても大体理解できました。

第3回講座 10月30日(土) 13:30〜16:30

課題創出

関心のある課題について掘り下げていく手法を学び、チームで実践。

【第3回講座のアジェンダ】

＜前半＞
ヒアリングと課題明確化についての説明
課題明確化のグループワーク

＜後半＞
情報収集（汎仮説）の説明
情報収集のグループワーク
課題の明確化の先についての説明

講義&グループワーク「課題創出 / 情報収集(汎仮説) / 課題の明確化」

企画をしていく上での最初のステップは、ヒアリングになります。自らが課題保持者である場合は不要ですが、そうでない場合はプロジェクトチーム内で課題を明らかにしていく必要があります。ヒアリングを行う上での技術的手法についてご紹介。

その後は、ヒアリングの手法を使いながら、グループに分かれて課題明確化のグループワークを実施。

講座の後半では、**「情報収集（汎仮説）」**をテーマに、広く情報収集を行う目的とその手法について改めてご説明した後、再度グループに分かれてワークを実施しました。

「課題の明確化」のワークについては宿題とし、次回（11月28日）までに自分たちが取り組む課題を明らかにしていくことになりました。

アンケートより

- 講義の後にグループワークがあったので、内容を落とし込むことができた。
- シビックテックでのチームで課題に取り組むための過程や注意しなければならい点など、仕事でも生かせる内容でした。情報収集の手法でも参考になることが多くありました。

第4回講座 11月28日(日) 13:30〜16:30

アイデア創出 / コンセプトメイキング

課題に対するアイデアをチームで検討。その核となる「コンセプト」を創造する方法を学び、チームで実践。

【第4回講座のアジェンダ】
・発表：各チームから「取り組む課題」の共有
・講義：発散的発想法の説明
・グループワーク：ブレインストーミング／ライティングの実施
・講義：収束的発想法とコンセプトメイキングの説明
・グループワーク：収束的発想法とコンセプトメイキングの実習

講義&グループワーク
「発散的発想法 / 収束的発想法 / コンセプトメイキング」

まずは、前回宿題になっていた、今後取り組んでいく課題について各チームから報告がありました。

後半では、課題を実現化するためのアイデア出しに有効な考え方**「発散的発想法」**についてご説明しました。お馴染みのブレインストーミングやブレインライティングという手法を活用して、質より量のアイデアを出すことが大事です。

まだ課題が定まっていないチームは課題決めのディスカッションを行うなど、チームの進捗度に合わせたグループワークの時間となりました。

休憩を挟んだ後半では、ブレインストーミングやブレインライティングで出てきたアイデアに具体的なラベル付けを行なう「収束的発想法」、それらのラベルから企画の核となる概念を考える「コンセプトメイキング」についてご説明しました。なるべく沢山情報収集をして課題に対する知識を深め、しっかりとしたコンセプトを立てることで、良い企画が生まれてきます。

アンケートより

- アイディアの発散的発想法と収束的発想法のぞれぞれの実施方法とポイントが理解できました。ただ、コンセプトメイキングの部分が少し難しく感じました。 漠然とした思考をコンセプトを設定することで、基本的な思考（意識）になりやるべきことが明確化することなのかと理解しました。

第5回講座 12月11日(土) 13:30～16:30

企画概要と企画詳細作成

コンセプトを元にした企画を作成。企画をより精緻化（持続可能なモデルを念頭に）する方法を学び、チームで実践。

第5回講座は、リアルとオンラインでのハイブリッド開催のため、会場である宜野湾市役所に足を運んだ参加者は、グループメンバーと初めて顔を合わせる機会となりました。

【第5回講座のアジェンダ】
・発表：複数チームからコンセプトの発表
・講義：企画概要の作成などについての説明
・グループワーク：グループ実習 ※進捗度に合わせて実施
・講義：シビックテックにおける資金調達
・グループワーク：グループ実習

コンセプトは、企画を作成する上で大事な要素となっています。前回の講座でコンセプトを創造する方法を学び、参加者は講座外の時間にミーティングをするなどして意見を固めていただきました。

講義の最初には、コンセプトが決まったグループから簡単なスライドとともに発表がおこなわれました。福島講師からは、「作りたいものを想像しながらコンセプトを作るのではなく、大事にしたいことは何だろうと（コンセプトを）考えてアイデアの検討を進めてほしい」、「真のコンセプトは別にあるのではないか？」などのフィードバックがありました。

コンセプトが決まったら、さらにリサーチを進め、具体的な企画を考えていきます。

- 情報収集
- 企画概要の作成
- 企画詳細作成

講義「シビックテックにおける資金の考え方」

実際に活動を続けていくためには、様々なお金が必要になります。福島が代表理事を務める一般社団法人 Code for Kanazawaなどの例をもとに、資金調達の手段をお伝えしました。補助金やクラウドファンディングなどの手段を知ることで、企画概要の予算部分の検討や参加者の普段の活動に活かしていただけたらと思います。

第6回講座 12月19日(日) 13:30〜16:30

プレゼン資料作成

プレゼンテーションとは何かを学習。プレゼン資料を作成しながら企画の精緻化もおこない、内容や伝え方について実習を通じて学ぶ。

グループワークでは、実際にプレゼン資料を作成しながら企画の精緻化を行うことを予定していますが、各グループの進捗度に合わせて企画概要・詳細を詰めるなど、作業を進めていただきました。

【第6回講座のアジェンダ】
・講義：プレゼンテーションとは
　プレゼン資料の構成、ノーコードツールの紹介
・グループワーク：各グループの進捗度に合わせてディスカッション
・共有：各グループの進捗具合と今後の作業について

シビックテックの活動をしていると、イベントで活動紹介や仲間を募集するとき、外部からの支援を受けたいときなどのために、普段から自分たちの活動の資料をまとめておくことの大切さを共有しました。

講義「ノーコードツール」

その後、企画を実現するためのツールの一つとして、プログラミングなしでアプリを作れる「ノーコードツール」について簡単にご説明しました。講座では、スプレッドシートを取り込むだけで簡単なアプリが作れる無料ツール「Glide」をお見せしましたが、その他にも様々なツールがあります。

現時点では、アプリを作って課題を解決するというグループが多かったのですが、アプリ制作会社に依頼するのではなく、自分たちで手を動かして作ることができればより実現可能性が高まります。

テクノロジーの進化により、ICTの専門知識を持たずともアプリを作れる時代になっています。このようなツールを上手に活用し、身近な課題を自分たちで解決するDIY市民が増えて欲しいと思い、ご紹介させていただきました。

アンケートより

- プレゼンテーションを通して、どうやって仲間を増やすかを意識した資料でなければいけないと納得できました。
- 実際に「どうにかしたい」というふんわりとした課題意識だけではシビックテックは発展しないのだなと感じました。

第7回講座 1月16日(日) 13:30〜16:30

プロトタイプ作成
プレゼン資料ブラッシュアップ

プロトタイピングツール/ノーコードツールなどを用いてプロトタイプ作成。発表練習を通じて、プレゼン資料のブラッシュアップ。

【第7回講座のアジェンダ】
・共有：各グループの進捗状況を確認し、講師からフィードバック
・グループワーク：各グループの進捗度に合わせてディスカッショ

グループワークでは、講師とサポート講師がZoomのブレイクアウトルームを巡回し、質問に答えたり、アドバイスを行ったりしました。

講座時間内外問わず、チームでの作業は「Googleスライド」や「Googleドキュメント」のツールを使ってオンラインで進められています。今回の講座の最初の時間で、それらの資料を画面に映しながら講師・福島から方向性の確認やアイデアを深堀りする際に注意すべきポイントなどをお伝えしました。

アンケートより

- プレゼン作成ポイントや発表時の注意点など、勉強になりました。また、本日最後のチームの今後の取組内容発表への福島さんのコメントは、自チームの取組みでも参考になる内容が多くありました。

第8回講座 2月5日(土) 13:30〜16:30

最終プレゼン発表

昨年10月から始まった本講座も、いよいよ最終発表となりました。どのチームも講座外の時間を使って関係者へのヒアリングやディスカッションを進めるなど、時間をかけて練られた素晴らしい内容でした。

各チームの発表内容については、次ページからご紹介していきます。

地域の観光データベースのオープン化

観光チーム

取り組むべき課題

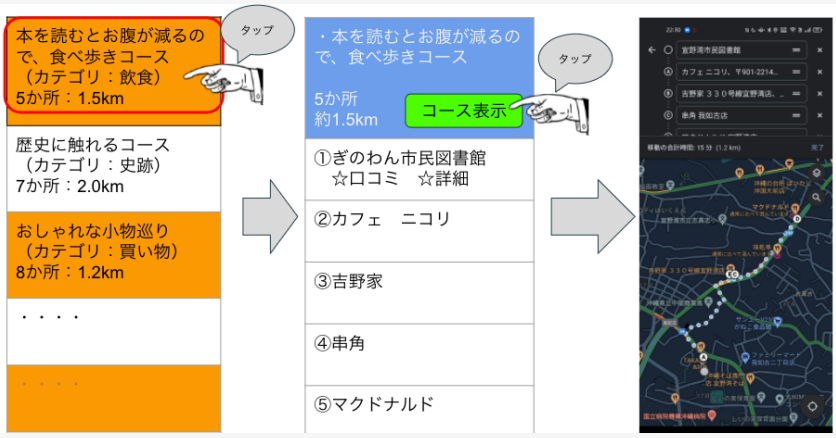
コロナ禍で沖縄の観光産業は大きな打撃を受けた。環境の変化に影響されにくい収入を増加させるべく、地元主体のマイクロツーリズムを強化する必要がある。また、既存謙方法(事業者によるバスツアー等)だけではなく、個人単位で周遊できる仕組みを作り、地元住民を含めより外出する機会を創出するために、地元住民も観光資源について手軽にアクセスできる必要がある。

解決のためのアイデア

地域観光データがワンストップで得られるWebサイト、まちまーいデータベースの構築

企画詳細

「マイクロツーリズム」を強化するためには、バスツアーなどの既存の方法だけでなく、個人単位でも周遊できる仕組みを作り、地元住民を含めより外出する機会を得る必要があると考える。また、地元住民や観光客から得られる情報も観光資源として活用できることから、さまざまな人から「周遊方法」の提案もらうことで、活用度合いが上がり、より効果が高いのではないかと考える。そこで「地域観光のデータベース」を構築し、より多くの人に活用してもらえるように「オープン化」し、オープン化されたデータをもとに周遊コースを提案する。



提案される周遊コースを使って小旅行をする人が増え、データのオープン化をするのが狙い。

繋がりから生まれるHappiness
多文化共生チーム

取り組むべき課題

- 外国人在住者は、生活に必要な情報を得ることが難しい
- お互いの生活習慣や文化を理解し合える場が少ない
- 外国人在住者は、沖縄の良さを感じる機会が少なく、寂しさや疎外感がある

解決のためのアイデア

- 外国人の方が気軽に情報を得ることができ、相談できる環境や場をつくる。
- お互いの文化交流が生まれる環境や場をつくる。
- 先に沖縄に移住した先輩や、地域住民が、新しく来た外国人の困りごとをサポートできるような環境や場をつくる。

企画詳細

行政、企業、団体、個人などが、外国人向けの情報を各々で発信しているので、情報を一箇所に集約することで、外国人が安心する『居場所＝安心する空間』を提供する。

マッチング

地域住民や在住外国人などを繋げる

SNSや既存情報の活用＆シェア

1箇所に全ての生活情報を集約する

地域通貨やポイントで地域貢献・循環

地域通貨やポイント制度で仕組みを広げる

沖縄に住む外国人と共につくるまち

ちむぐぐるでつくる三方良しの わらばー育て

子育て・女性支援チーム

取り組むべき課題

- 子育ての「困った」を2人で解決しなければいけない現状
  （＝孤立した子育て）

解決のためのアイデア

気軽に友人やコミュニティに頼り・頼られる環境を実現

- 子育ての「困った」で、他者に頼るきっかけづくり
- 「困った」の時に、気軽に頼り・頼れるコミュニティづくり
- それらを可能にする、シンプルなツールづくり

企画詳細

子育て世代が気軽に使える、シンプルなツールを使ったコミュニティづくり。

フェーズ1：子育て世代が友人間で頼りあえる小さなコミュニティツール

知り合い間・招待制で
グループを作成

グループメンバー間の
空きスケジュールを見える化

預かった子供の必要情報が
ひとめでわかる

フェーズ2：より地域を巻き込んだコミュニティー子育てを復活させる

地域コミュニティーグループ追加、地域と連動したLIVEサービス実施、マーケット開設など

Agree to Disagree ～違いを認め合う～
ジェンダーチーム

取り組むべき課題

- ジェンダーによる偏見を取り除く
- ジェンダー平等社会の実現
- 違いを認め合う意識の醸成

解決のためのアイデア

はごろもプランのオープンデータ化と活用
（はごろもプラン：第3次宜野湾市男女共同参画計画）

企画詳細

はごろもプランにおける、以下のデータをオープンデータに。

1. 指標に基づく中間評価
2. アンケート調査
3. 平成30年度市町村における男女共同参画の状況・沖縄県女性力・平和推進
4. 平成27年国勢調査
5. 宜野湾市人事課
6. 沖縄県人口動態統計

目指すは自治体の自走だが、オープンデータの作成にシビックテックとして関与する。

ポイント1：オープンデータの作成と活用

- 宜野湾市をデータで理解する
- 啓発方法(SNS等)を工夫する （対象に合わせたテーマと発信）

ポイント2：意識が変われば行動が変わる

- アンコンシャスバイアスに気づく
- ジェンダーバイアスを無くす

まずは、知ることから始めよう

視覚障がい者も利用しやすい公共交通を

公共交通チーム

取り組むべき課題

- 運転手によって音声アナウンスがない場合がある
- リアルタイム位置情報が音声で共有されていない
- 空席があるかわからない
- 乗り継ぎが不便

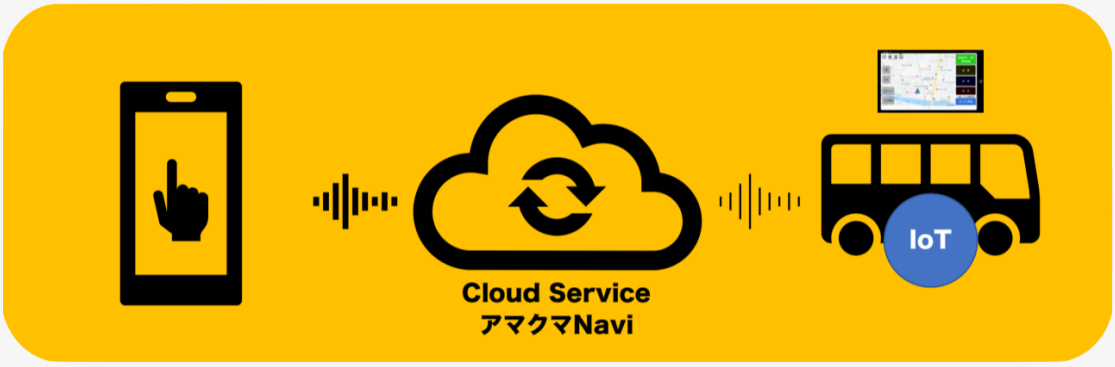
解決のためのアイデア

聞く交通アプリ『アマクマ Navi』

- 交通機関の利用情報を「視覚情報」だけでなく「聴覚情報」でも提供することで、健常者が得る情報を視覚障がいのある人も認知することができるようにする。
- バス運転手が事前に乗客情報を知ることで、乗客時のホスピタリティを高める。

企画詳細

- 視覚障がい者向けクラウドサービス。
- 沖縄県内運行の公共交通機関(バス)の静的データ(路線図・系統番号・時刻表・運営会社等)と動的データ(運行状況・位置情報等)が連携され、利用者のリクエストに応じてAIが最適な交通情報を抽出し、公共交通機関利用にかかる情報を、「視覚情報と同程度」の聴覚情報を提供する。



住民のニーズに応える！
コロナ情報ワンストップサービス
コロナ対策チーム

取り組むべき課題

- 住民目線
  - 刻一刻と変わる新型コロナウイルス感染症に関する情報が欲しい
  - 情報量が膨大で、どこに問い合わせればいいのか分からない、など
- 自治体目線
  - 国や県からの通知が多く、ワクチン接種業務や自治体独自の施策も行っている
  - これらの業務に加え、国や県への報告や、住民からの問い合わせに忙殺されている、など

解決のためのアイデア

コロナ情報ポータルサイトの構築・活用

- IVR(Interactive Voice Response=自動音声応答システム)を活用

企画詳細

【情報の整理】

- 共通情報は住民から欲しい情報をアンケートで募集・集計（週１回程度）上位３～５つ程度について、サイトトップに質疑応答を掲載
- 独自情報は共通のgoogleスプレッドシートを活用することで、自治体間の情報連携・情報類型化

【情報の提供】

- 共通のgoogleスプレッドシートの更新により自動的に反映させる（入力する自治体が責任者）
- 住民は類型化された情報を検索し、統一のフォームで入手することができる

「学び場」ナビゲート
教育チーム

取り組むべき課題

- 生徒・児童サイド
  - 無料塾の情報が取得しづらい
  - 無料塾の内容が分かりづらく比較できない
- 支援者サイド
  - 情報を有効に発信できていない
  - 各団体の縦(行政と民間)/横(無料塾同士)の連携がうまくとれていない
  - 団体/個人が相互に活用されていない

解決のためのアイデア

テクノロジーで子どもと学習支援者をつなぐ「学び場」ナビゲート

- 学習支援者を繋ぐことで、学校の負担軽減、子どもの学力向上、そして未来を創る人材形成を目指したい！

子どもが「未来」に
ワクワクできる沖縄を実現したい

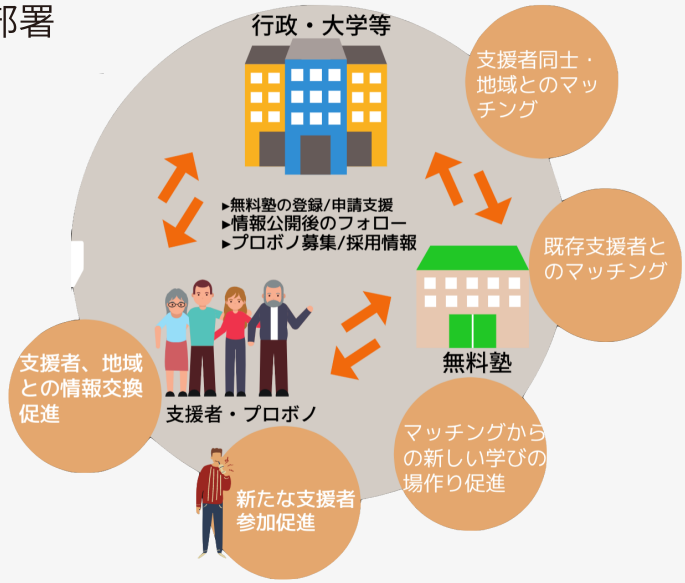
企画詳細

情報の収集と公開

1. 対象エリアを那覇市、浦添市、宜野湾市に選定し、既存支援団体、関連行政部署等のリストアップ
2. 各所へ本企画の説明と情報掲載依頼
3. 学習の場・内容情報を収集

チームが乗り越えるべき壁

1. 繋がり…無料塾や関連行政部署等の支援者とのコネクションが希薄
2. 人材…多くの支援者と交渉する人材の獲得
3. アプリ…開発できる技術者
4. 資金…賛同するスポンサーを集める



集まれ！
こどもいえサポーター@ぎのわん
子どもの居場所チーム

取り組むべき課題

- 情報不足（人材・物・金）
- 人手不足（必要な人材確保が困難）

解決のためのアイデア

ポータルサイトの作成

居場所同士・ステークホルダーとの繋がりを増やす

企画詳細

ポータルサイトの作成

- 子どもの居場所一覧から各居場所のSNSやHPにリンクできる。
- イベント情報や募集情報は各居場所にSNSでハッシュタグ「#あつさぽ(仮)」をつけてもらうことで自動集約される。
- 補助金等の情報は、行政/ファンド/企業のサイトからスクレイピングする。

【フェーズ1】

あつめる

こどもの居場所の実態の可視化

▼

【フェーズ2】

マッチング

居場所と支援者をつなぐ

講座修了後アンケート①

19名回答

Q.講座の回数（8回講座）はいかがでしたか？

A. 満足14名　やや満足4名 やや不満1名

＜満足の理由＞

- シビックテックのあり方や課題解決に向け取組むべき手順など多くを学べたため
- テーマ選定から企画立案、プレゼンまでシビックテックのスタートアップを経験することができ、とてもいい経験になりました。また、志を持った方々と出会えたことも大きな成果です。

＜やや満足の理由＞

- CivicTechの基礎から丁寧に学ぶことができたため。しかし、もっと学びを深めたい、特にノーコードツールなどを用いて、実際に作品を完成させるところまで学びたいと思い、次への期待を込めて「満足」は遠慮させていただきました。

＜やや不満＞

- 内容が充実しすぎていて、8回では足りなかった。

Q.地域課題に取り組むにあたりICT活用は重要だと思いますか？

A. 思う19名　思わない0名

- 「みえる化」「広げる」「繋げる」などICT活用は、インターネットが浸透した現在の環境で、とても大きなインパクトがあると講座を通して再認識しました。
- 少子化、超高齢化、避けられない流れのなかでこれまでマンパワーだけでフォローしていたとをテクノロジーを活用して、人間じゃなければできない事、機械だから便利な事を住み分けることでより暮らしやすい社会になると思う。

Q.この講座を通じて、どのような学びがありましたか？

- シビックテックを通して人が繋がる仕組みを本講座で学べた。チームでの課題提起に対し、様々な視点での調査や意見はとても勉強になった。
- たくさんのアイディアに触れたし、沖縄を元気にしたい人がこんなにいるってことに勇気づけられた
- シビックテック自体のこと、ICTの事はもちろんですが、一市民として、地域の課題を解決するために動いている方々が大勢いること、そしてその力が小さいものではなく、社会を変える影響力をもつ可能性があることを知ることができました。

講座修了後アンケート②

19名回答

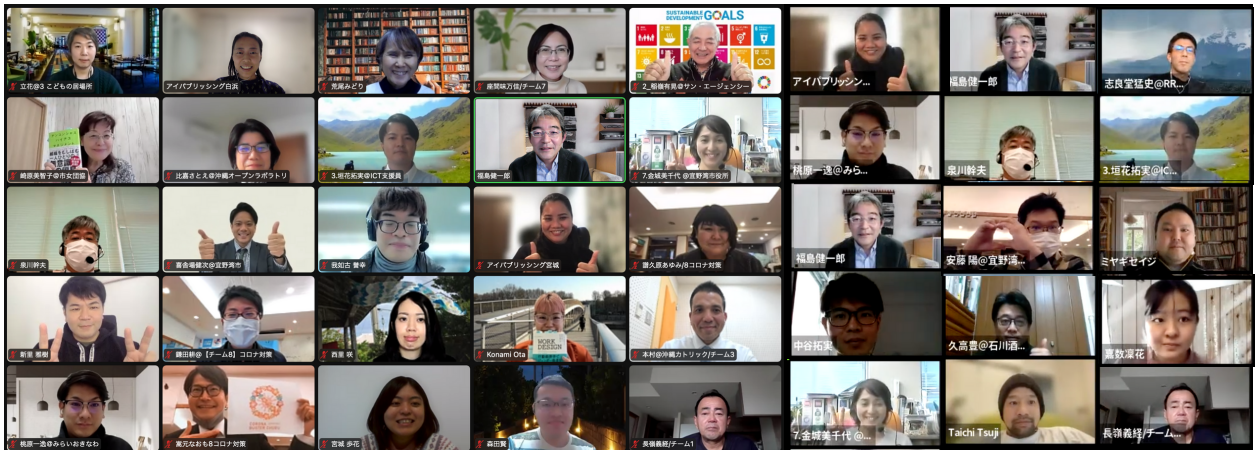
Q.本講座を受講して新しい繋がりは出来ましたか？

- 類似の課題を抱いていたチームメンバーとのご縁は、私にとってとても大きな繋がりとなり、さらに他チームにはなりますが別のCivicTechのコミュニティ活動でもご一緒させていただけています。
- 宜野湾市の講座ということでしたが、市を超えた繋がりもでき、大いに可能性が広がりました。

Q.もし活動継続の場がある場合、参加したいと思いますか？

A. はい19名　いいえ0名

- 自チームのプロジェクトの継続希望だが、シビックテック活動や他のチームのプロジェクトにも興味があるので、できる範囲で参加させてもらいたい。
- こういう場があると学び続けることができる。一人では続けられないかも。
- CivicTechを通して、沖縄の地域課題をよりよくしたい！と思ってくださっている方がこんなにもたくさんいらっしゃることを知り、ぜひ継続的に交流しながら活動を続けたいと思いました。
- シビックテックは個々人の「継続させる力」が何より大切な動力になるかと思います。今後も様々な関りをしていきたいです。



事業概要

シビックテックによる市民協働まちづくり講座
ICTで地域課題を解決する新しい市民活動

宜野湾市 企画部 市民協働推進課 市民協働係 TEL (098) 893-4411 (内線 2221)